

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／公共】

1. 対象 1年
2. 単元名「現代の経済と市場」（全5時間）
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解する。
思考力、判断力、表現力等	経済のグローバル化と相互依存関係の深まるなかにおいて、効率的な資源配分を実現する上で求められることを協働して考察し、論拠を示してまとめる。
学びに向かう力、人間性等	公正で自由な経済活動を通して市場が効率的な資源配分を実現できるのかについて他者と協働して追究したり解決したりする活動によって自らの考えを深める。

4. 本時の目標

- ・効率的な資源配分を実現する上で求められることを協働して考察し、論拠を示しながら表現できる。
「思考・判断・表現」
- ・自由な経済活動を通して市場が効率的な資源配分を実現できるのかについて他者と協働して追究したり解決したりする活動によって自らの考えを深める。「主体的に学習に取り組む態度」

5. 授業展開【**本時**・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

経済成長を遂げるために必要な考え方とは？～新・貿易ゲームをやってみよう～

考えるための材料

※解決したい課題を考えるために必要な資料、道具、教材など

各グループに道具（鉛筆、はさみ、定規、コンパス、紙、クリップ（大・小））を封筒に入れて配布する。すべてのグループに同じものを配布することはない。グループによって中身は異なる。

※物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）

ハサミや鉛筆などの道具と紙を使って「製品」を作り、「マーケット」で売って収入を得る。ただし、スタート時点で渡される道具は、グループによって異なることから、ゲームが進むにつれて「格差」が生まれると同時に、各グループ間で道具や紙の取引が自然発生的に行われる。限られた資源の中でどのように配分を実現するのか、自分たちの利益を最大化するためにはどのような方法があるか考える。このゲームの内容は私たちが生きる社会の中のどのような場面で見られるのかについて考察する。
また、ゲームの途中で製品の価格を変更したり、道具の追加、新しい規格を発表したりしながら変化を与える。

想定される活動

技術（道具等）があっても資源（紙）がなければ生産を行うことができない。その逆も同様である。したがって生徒は、自分の置かれた状況と周りの状況をよく観察しながら、自分たちが利益を最大化する、他のグループより優位に立つためにはどうすればよいのかを考えて行動する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）を簡潔に記入してください。

各班 5 人の 5 グループで行う。活動時間は 35 分を設定し、最も収入が高かったグループの勝利とする。

※対話や思考のプロセスを想定し、児童生徒の言葉で具体的に記入してください。

・道具・カネは豊富だが資源（紙）のないグループ

「道具があったところで紙がないから何も作れない！」「カネで紙を買ってこよう！」

・資源（紙）は豊富だが道具・カネはないグループ

「紙があっても意味ないじゃん！」「紙を売って、その金で道具を買おう！」

・道具もカネも資源（紙）もないグループ

「なにをしたらいいんだろう？」「これじゃ何も収入が得られない。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

「経済成長をするためには、資源や技術など一定レベルで備わっていないと厳しい。」

「自分たちだけで成長することは難しいので、周りの国（グループ）との協力・協調が必要」

「状況が変化することで取るべき行動・活動を変えなければならない。」

「道具（技術）がない中で、どうすれば活動を盛んにできるのかなど、発展途上国への支援の在り方への考えが持てた。」

「より大きな利益・成長を生むには、自分たちの資源や技術をどのように活かしてのかが重要」

「これと同じような状況が、大企業と中小企業、先進国と発展途上国の関係・構図に近いと思う。」

「どのグループも利益を最大化するために資源をフル活用していくことで社会が発展していく。」

「経済格差はどんどん深まるばかり」